

## ニチレキの「新研究棟」が完成しました

ニチレキは、今後の道路インフラの整備に係る多様なニーズに的確に対応できるように研究開発を強化・促進することを目的として、栃木県下野市（下野市柴 272）にある技術研究所の敷地内に新研究棟を建設し、平成 28 年 5 月 26 日に竣工式を執り行いました。

新研究棟では、橋梁、トンネルおよび舗装などの道路関連施設の老朽化対策、長寿命化、防災および震災対策など、研究内容の質と精度をさらに高めるため、従来の実験設備に加えて新たな性能評価試験機類を配備しており、道路の長寿命化、大規模更新などの社会インフラのメンテナンス時代に対応した環境配慮型の製品・工法の研究開発を推進していきます。



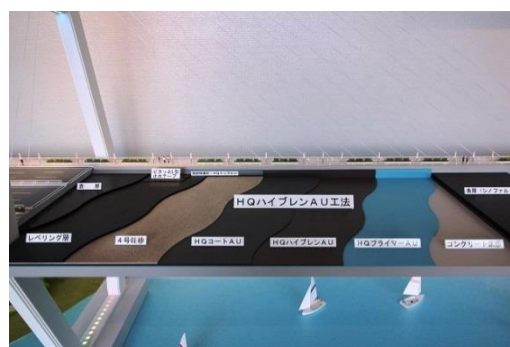
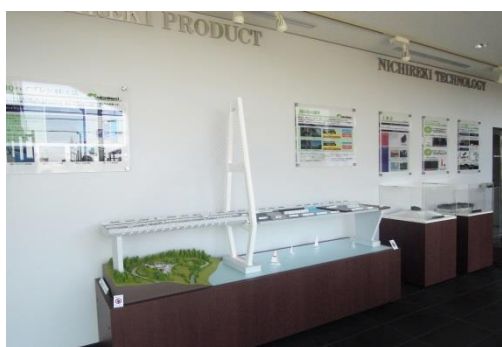
新研究棟は、正面がガラス貼りの開放的な設計で、鉄筋 2 階建、建築面積 1,330 m<sup>2</sup>、床面積 2,490 m<sup>2</sup>の広さを有し、次世代の研究開発も視野に入れた最新の実験設備と研究環境を整えた施設です。

エントランスを入ると展示ギャラリーになっており、正面には、戦後から現在に至るまで、日本の経済成長を支えた道路舗装技術の発展とニチレキの技術開発の歴史との関係が、年代別にわかるパネルが展示されています。



先に進むと、新製品および新工法を説明するモニターや展示物が配置されており、大型模型と現場から採取した実物大試料を使って視覚的に舗装の知識を深めることができる場も用意されているなど、ユニークなギャラリーとなりました。

例えば、コンクリート床版用の高性能床版防水工法である「H QハイブレンA U工法」、鋼床版舗装用の接着剤「カチコートX」および鋼床版舗装用の高性能ポリマー改質アスファルト「シノファルトM」などの橋梁長寿命化材料が斜張橋の大型模型を使って、ビジュアルで分かりやすく解説されています。



研究設備の面では、ひび割れやわだち掘れなどの舗装のパフォーマンス予測に必要な各種の物理定数を測定できる試験装置を導入しました。また、橋面舗装においては、床版、防水層および舗装のいわゆる三位一体の構造体の寿命予測を可能とする最新型のせん断疲労試験機を導入、さらに寒冷地から熱帯地域までの広範囲の気象条件に対応した材料開発に繋げることを目的とした最新型の温度応力試験機を製作し、高精度に舗装の熱応力特性を分析できるようにしました。その他、メカニズムの異なる複数の種類の劣化試験装置を配備したことで、耐候性を付加した特殊なメンテナンス材料の開発を進めていきます。



また新研究棟は、技術講習会や各種の研修会を行う施設としても整備・拡充を図ったことにより、研究開発力の向上にとどまらず、社員研修を通じた技術力アップにも貢献できる総合的な研究開発の場として生まれ変わりました。